

同じ情報を同じ時間に...



大阪A選挙区 総代
山田美登里さん

障がい者ポ
ランティアチ
ームは毎週、
声の商品案内
CDや請求明

細の点字版をお届けしています。東日本大震災の後、募金や物資受付などの情報は「本部対策速報」を臨時にCD発行、「はるタイム臨時号」は、土曜日まで待つて作業することで同時配布を可能にしました。CDを発行している意義を改めて認識、これからも共に何ができるか考え進んでいきたいです。

組合員活動について



枚方選挙区 総代
藤井 由美さん

委員会活動
は、自分が感
銘を受けた体
験を人に共感
されて伝わっ

た時に充実感を得ることができ、反対に力不足を嘆く時もあります。そこに至るまで悩んだり、調べたり、考えたり、容易ではないけれど、「そこか」と思える道筋が見えた時、満足感を生む。普段、家事をしてもなかなか手にすることのできない感覚であるし、組合員活動の醍醐味だと思います。

生協の野菜が一番!



大阪D選挙区 総代
矢賀 幸子さん

子どもの頃
に食べた、生
協の商品で作
った叔母の手
料理の影響

で、「私も結婚したら生協に入る!」と思っていました。今年2月子どもと参加した「生産者との交流会」では、おいしい人参と出会い、家庭でも子どもたちといろいろ考えたりしました。私たちが生協で野菜を利用することが生産者の方々に応援することだと信じています。

今こそ日本の農業を守り、生産者を支えるとき。手遅れになる前に...



大阪C選挙区 総代
橋本佳穂理さん

地球温暖化
・自然災害の
影響から、世
界中で農作物
が不作となる

状況がおきています。震災前には自由貿易交渉の一つである「TPP」に日本も参加する意向であると報道されていましたが、今こそ日本の農業を守り、生産者を守り存続させていかなければなりません。パルコップの一員としてできることを考え、行動していきたいと思えます。

商品の利用で食卓を守ろう!!



大阪D選挙区 総代
宮部 典子さん

学習会でト
マト栽培は手
間や苦勞が多
いと聞きました。
それが報

われなければ後継者も現れず、日本の農業は衰退する一方です。本当に安全でおいしいものがほしいなら、その対価に見合った価格を支払わなければならないと思います。交流を通じて生産者の方にお礼や感謝・励ましを伝え、商品の利用で日本の自分たちの食卓を守っていきましょ。

今こそ協同の力を



大阪C選挙区 総代
増田 清美さん

東日本大震
災の時、誰も
が被災地のた
めに何か役立
てることはな

いかと考えました。パルコップではメーカーの支援や放射能の風評被害に対しても検査機器を導入して安全をきちんと検査して届けることです。私たち組合員にできるのは、一にも二にも利用することだと思います。利用することで、メーカーや産地が復興していけると強く信じています。

また、26名の総代からも、組合員活動、平和、店舗、震災支援、福祉について意見が寄せられ、文書で配布しました。

* 退任のごあいさつ *

日本生協連の職員だった私がパルコップの前身である大阪かわち市民生協の設立準備に関わって以来、36年となりました。その時、自分の子どもたちのためにより安全な商品が欲しいと思うお母さん方の思いが原動力となり、生協を創っていかうとする力強さを感じました。例えば、当時あまりなかった「無調整の牛乳が欲しい」となれば、一般の主婦が自らメーカーを探し、組合員を拡大し、その条件をつくるために励まし合い、助け合いながら走り回る姿を目の当たりにして、生協の原点とはこういうものかということを感じることが出来ました。まさに「目からうろこ」でした。今日の総代会の発言の中に、人と人との関係を大切に協同していこうということが多く出されていました。時代が変わっても、生協のDNAは引き継がれていることを強く感じました。東日本大震災の復興に向けて、協同と連帯の精神で力強く、息の長い支援活動を続けていきたいと思います。生協の底力を発揮する時です。こういう生協の設立、発展のために組合員の皆さんと一緒に参加できたことを誇りに思い、感謝したいと思います。長い間ありがとうございました。

6名の退任理事・監事を代表して
前理事長・山本邦雄

発言を受けての理事会のまとめ(要約)

会場発言・文書発言を含め38名の発言でした。議案を補強し、自らの活動として発展させ、事業との連動・共同、今後の改善について発言いただきました。今年度の事業活動に生かさせていただきます。

組合員活動について

多岐にわたる活動の発言をいただきました。組合員活動への参加人数減少と活動の維持の困難さについて、組合員活動のあり方をみなさんと引き続き模索してまいります。文書発言であった、組合員活動の場での1歳未満保育のご要望についても、専門家の意見を聞きながら、検討してまいります。事業との連動では、あらためて連絡や相談を密にして、できることを一つでも多く行なっていきます。

店舗について

2010年度、事業成立の前提となる黒字まであとわずかになりました。2011年度も引き続き組合員さんと職員が共同で店舗事業成立をめざし、一緒に悩み考えながら進めていきます。今年度、事業の成立のめどをつけて店舗の着手を考えます。

共同購入について

4月から、商品の少量化、商品案内のページ数と品目数を削減しました。7月以降さらに検証し、組合員さんの利用の声とデータで改善をすすめます。くらしの中の商品交流会では、地域活動委員会に事前にお知らせし、それぞれの役割で連動してすすめていきます。

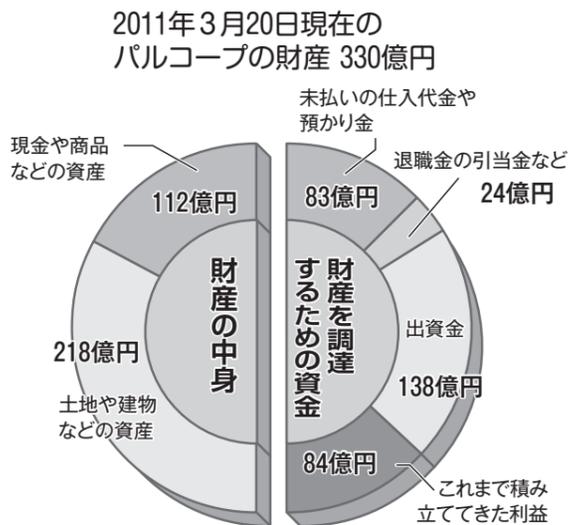
生産者との信頼・応援

被災された生産者・お取引先の復興に、企画・利用で応えていきます。安全の確認もしながら風評被害に同調せず、被災地の商品を通常企画・応援企画ですすめていきます。昨年を上回る生産者との交流を通して、日本の農業の継続と自給率向上に寄与していきます。

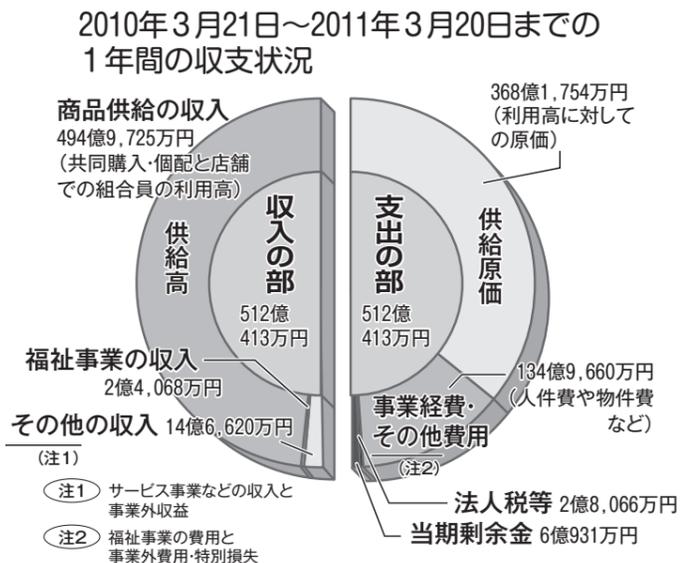
「良かった」の声を生産者の皆さんへの最大の励ましとし、「改善要望」の声は、生産者・パルコップ商品部・組合員さんの3者で進めます。

組合員のみならずとも、協同組合の精神を発揮して被災地に寄り添う活動とあわせ、数多くの事業を両立させる充実した1年にしていきます。

2010年度 事業の結果



億円未満の端数を切り捨てています。



万円未満の端数を切り捨てています。